

今回提案された観点の今後の取り扱い

航空委において来年度中に行う最終とりまとめに今回提案された観点を追加するとともに、JAXAにおける個別具体の研究開発の取組についての詳細な検討の際にも、これらの観点を踏まえた検討を行うことを求める。

JAXAにおける検討においては、特に「（３）未来社会デザイン・シナリオを実現するための研究開発・基盤技術整備の方向性について」を踏まえて、個別具体の研究開発の取組において以下の点を考慮する。

・優位技術を考慮した研究開発戦略：

情報化社会において生じた移動に対する社会的価値観の変化が、with/afterコロナ時代において急激に加速されることから、環境負荷の低減や運航コストの削減、時間的・地理的制約の緩和などによって、航空輸送の価値をより一層高める研究開発が必要

・異分野連携も活用した革新技术創出：

非連続な社会変化への対応を苦手とする航空輸送の現状を踏まえ、デジタル技術（IoT）を活用した連携拡大等により、より多様なシナリオに即応できる機動性を高める体制を構築。AI・ロボット・IoTを活用した省人化や無人運航、次世代モビリティも組み合わせたオンデマンド輸送を実現するなど、有事の際にも利便性が損なわれないようにする研究開発が必要。

・出口を見据えた産業界との連携：

今後も有事による国際共同開発が遅延・中止となるリスクを抱えるなかで、デュアルユースの拡大等により、技術の陳腐化や実用化・製品化機会の喪失を回避。。